平成23年３月期　第２四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年10月28日

上 場 会 社 名	旭有機材工業株式会社	上場取引所	東
コ ー ド 番 号	4216	URL	http://www.asahi-yukizai.co.jp
代　　表　　者	(役職名)代表取締役社長	(氏名)佐次 洋一	
問合せ先責任者	(役職名)総務部長	(氏名)岡本 忠久	TEL(03)3256-2451
四半期報告書提出予定日	平成22年11月８日	配当支払開始予定日	平成22年12月６日

四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満四捨五入)

1.　平成23年３月期第２四半期の連結業績（平成22年４月１日～平成22年９月30日）

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年３月期第２四半期	15,214	13.8	177	―	158	―	△171	―
22年３月期第２四半期	13,367	△30.1	△1,080	―	△1,019	―	△712	―

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年３月期第２四半期	△1 75	―
22年３月期第２四半期	△7 29	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年３月期第２四半期	49,869	38,637	77.5	395 49
22年３月期	51,149	39,328	76.8	402 18

（参考）　自己資本　　23年３月期第２四半期　　38,637百万円　　22年３月期　　39,294百万円

2.　配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年３月期	―	3 00	―	3 00	6 00
23年３月期	―	3 00			
23年３月期(予想)			―	3 00	6 00

（注）　当四半期における配当予想の修正有無　：　無

3.　平成23年３月期の連結業績予想（平成22年４月１日～平成23年３月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,000	14.3	800	―	750	―	200	―	2 05

（注）　当四半期における業績予想の修正有無　：　有

4. その他（詳細は、【添付資料】４ページ「2.その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動　　：　無

新規　―社（　―　）、除外　―社（　―　）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用　　：　有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更　　：　有

② ①以外の変更　　：　無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年３月期２Ｑ	99,002,000株	22年３月期	99,002,000株
② 期末自己株式数	23年３月期２Ｑ	1,307,967株	22年３月期	1,298,622株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年３月期２Ｑ	97,698,580株	22年３月期２Ｑ	97,712,479株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）３ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 …… 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
2. その他の情報 …… 4
(1) 重要な子会社の異動の概要 …… 4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 …… 4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 …… 4
3. 四半期連結財務諸表 …… 5
(1) 四半期連結貸借対照表 …… 5
(2) 四半期連結損益計算書 …… 6
【第２四半期連結累計期間】 …… 6
(3) 継続企業の前提に関する注記 …… 7
(4) セグメント情報 …… 7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 7

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、厳しい雇用環境やデフレ状況は依然続いておりますが、個人消費の伸びにより回復基調にあります。また、世界経済につきましても、減速懸念や急速な円高の進行により、先行きの不透明感は払拭されないものの、新興国の牽引等により回復基調にあります。

このような事業環境下で、当社グループは、基盤事業において製造体制及び物流体制の整備、早期退職優遇制度の実施による体質強化を進めました。

それらの施策もあり、業績は前年度を底として、回復傾向を示しており、当第２四半期連結累計期間において、営業損益が三半期ぶりに黒字に転じました。なお、体制強化の実施に伴い、事業構造改善費用等の特別損失を計上しました。

以上の結果、当第２四半期連結累計期間の売上高は15,214百万円(前年同期比13.8%増)、営業利益は177百万円(前年同期の営業損失は1,080百万円)、経常利益は158百万円(前年同期の経常損失は1,019百万円)、四半期純損失は171百万円(前年同期の四半期純損失は712百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①管材システム事業

当第２四半期連結累計期間は、自動車や家電等のエコポイント等による個人消費の刺激策や新興国の活況に支えられ、製造業回復の兆しが見えてきた一方で、欧米景気の減速や円高の進行による輸出減少の懸念から大型投資案件の凍結が継続する等、国内設備投資は厳しい状況が続きました。

このような環境下において、主力の管材製品は販売量を伸ばしましたが、販売価格は価格競争により下落しました。半導体製造装置向けDymatrix製品の売上は、半導体業界がやや回復基調であったことにより大幅に増加しました。一方、製造部門におきましては、設備投資の精査等による設備コストの削減や、成型精度向上による省力化等コストダウンを継続的に行うことや、赤字事業の見直しにより、配管材料事業の収益は、前年同期対比で大幅に改善いたしました。

しかし、建設物件が激減したことで、配管施工を行うエンジニアリング事業の売上は、大幅に落ち込みました。

なお、アサヒアメリカ,INC.は、大型物件の受注等により売上を大幅に伸ばしました。また、電子機器向け洗浄装置を製造・販売するエーオーシーテクノ㈱は、太陽光発電装置向け製品の売上が大幅に増加しました。

以上の結果、当事業部の当第２四半期連結累計期間の売上高は9,703百万円と大幅な増収になり、セグメント利益も55百万円と大幅な増益になりました。

なお、パイプ事業では、国内製造体制の再構築、栃木工場(栃木県)、北方工場(宮崎県)の2拠点で行っているパイプ製造を、本年度末を目処に栃木工場に統合する等、さらなる合理化、省力化に努めてまいります。

②樹脂事業

鋳物用樹脂及びRCSは、国内では政府のエコカー減税・補助金政策の延長、輸出需要の回復により、自動車・建設機械向け鋳物生産が拡大したため、順調に売上を伸ばしました。また、海外では、タイの自動車生産台数が急速に回復したことにより売上を伸ばしました。

なお、中国江蘇省の鋳物用フェノール樹脂製造販売会社「旭有機材樹脂（南通）有限公司」は中国の自動車生産の増加に支えられ売上を大幅に伸ばしました。

ゴム・建材・耐火物用途を中心とする一般工業用途樹脂は、日本経済の穏やかな回復に伴う市場の回復により、売上を順調に伸ばしました。特に、「住宅エコポイント制度」の実施により建材用途の売上が大きく伸張しました。

電子材料用樹脂は、世界的に液晶及び半導体の需要が回復し、レジスト用樹脂、半導体用フェノール誘導体ともに売上を順調に伸ばしました。特にLED用レジスト向け樹脂は需要が旺盛で、大幅に伸張しました。

樹脂成形材料は、環境対応を背景とした車載部品の樹脂化をターゲットとしたマーケティング活動により自動車関連商品の需要の回復が本格化し、売上を順調に伸ばしました。

発泡材料用樹脂は、業界で初めてフロンガスを使用せず環境に優しい高性能ノンフロン現場発泡システム「ゼロフロンER」を前年度に上市いたしました。同システムの販売促進方法としては、現場発泡市場の低迷による価格競争に巻き込まれる事を避けるため、設計折込みによる販売需要確保に注力いたしました。その結果、当第２四半期連結累計期間は設計折込みの件数も順調に増加し、将来の売上の基盤を確保いたしました。

以上の結果、当事業部の当第２四半期連結累計期間の売上高は5,511百万円と大幅な増収になりました。そして、物流費や固定費の合理化等収益改善に努めたことにより、セグメント利益は161百万円と大幅な増益になりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第２四半期連結会計期間末の資産は49,869百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,280百万円減少しました。これは受取手形及び売掛金などの流動資産が減少したこと、減価償却などによる固定資産が減少したことによるものであります。負債は11,232百万円となり、前連結会計年度末に比べ589百万円減少しました。これは短期借入金が減少したこと、退職給付引当金が減少したことによるものです。純資産は38,637百万円となり、前連結会計年度末に比べ690百万円減少しました。これは配当による株主資本が減少したこと、その他有価証券評価差額金の減少によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、平成22年５月13日に公表しました通期業績予想を修正いたしました。

なお、当該予想に関する詳細につきましては、本日公表の「平成23年３月期第２四半期累計期間の業績予想値と実績値との差異ならびに通期業績予想値の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

１　一般債権の貸倒見積高の算定方法

前連結会計年度末に算定した貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

２　棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関して、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価格を見積り、簿価切下げを行なう方法によっております。

３　繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。ただし、経営環境等、又は、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められる場合は、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに当該著しい変化の影響を加味したものを利用する方法によっております。

４　未実現損益の消去

四半期連結会計期間末在庫高に占める当該棚卸資産の金額及び当該取引に係る損益率を合理的に見積って計算しております。

(特有の会計処理)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(会計処理基準に関する事項の変更)

資産除去債務に関する会計基準の適用

第１四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号　平成20年３月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号　平成20年３月31日）を適用しております。

これにより、当第２四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純損失は、19百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第２四半期連結会計期間末 (平成22年９月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年３月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,890	2,996
受取手形及び売掛金	11,069	11,510
有価証券	67	―
たな卸資産	5,958	5,980
その他	918	883
貸倒引当金	△37	△52
流動資産合計	20,864	21,316
固定資産		
有形固定資産	13,530	14,173
土地	6,053	6,068
その他（純額）	7,477	8,105
無形固定資産	289	342
投資その他の資産		
投資有価証券	10,223	10,494
その他	5,029	4,896
貸倒引当金	△66	△73
投資その他の資産合計	15,185	15,317
固定資産合計	29,005	29,832
資産合計	49,869	51,149
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,625	5,710
短期借入金	800	900
未払法人税等	39	―
引当金	472	―
その他	1,569	2,248
流動負債合計	8,504	8,858
固定負債		
退職給付引当金	1,235	1,438
役員退職慰労引当金	263	278
その他	1,229	1,248
固定負債合計	2,727	2,963
負債合計	11,232	11,821
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	8,479	8,479
利益剰余金	26,124	26,589
自己株式	△552	△550
株主資本合計	39,052	39,518
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△103	8
為替換算調整勘定	△312	△232
評価・換算差額等合計	△415	△224
少数株主持分	―	33
純資産合計	38,637	39,328
負債純資産合計	49,869	51,149

(2) 四半期連結損益計算書

【第２四半期連結累計期間】

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成21年４月１日 至 平成21年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）
売上高	13,367	15,214
売上原価	9,948	10,460
売上総利益	3,419	4,754
販売費及び一般管理費	4,499	4,577
営業利益又は営業損失（△）	△1,080	177
営業外収益		
受取利息	58	15
受取配当金	150	22
持分法による投資利益	－	18
有価証券償還益	－	90
為替差益	5	－
その他	40	25
営業外収益合計	253	170
営業外費用		
支払利息	13	2
持分法による投資損失	13	－
複合金融商品評価損	154	63
為替差損	－	112
その他	11	12
営業外費用合計	192	189
経常利益又は経常損失（△）	△1,019	158
特別利益		
固定資産売却益	－	162
貸倒引当金戻入額	12	15
その他	－	43
特別利益合計	12	220
特別損失		
固定資産除売却損	9	21
退職特別加算金	－	286
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	－	19
事業構造改善費用	－	189
その他	0	－
特別損失合計	9	514
税金等調整前四半期純損失（△）	△1,016	△136
法人税等	△298	39
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	－	△176
少数株主損失（△）	△6	△5
四半期純損失（△）	△712	△171

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

【セグメント情報】

(追加情報)

第１四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号　平成21年３月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号　平成20年３月21日)を適用しております。

１　報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは事業部を基礎とした製品・サービス別セグメントから構成されており、「管材システム事業」及び「樹脂事業」の２つを報告セグメントとしております。

「管材システム事業」は塩化ビニル等の合成樹脂製配管材料の製造・販売、配管工事の設計・施工、半導体関連機器の治具等用洗浄装置の販売・製造を行っております。「樹脂事業」は鋳物用樹脂、鋳物用レジンコーテッドサンド、一般工業用樹脂、発泡材料用樹脂、電子材料用樹脂及び誘導体、並びに樹脂成形材料等の製造・販売を行っております。

２　報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第２四半期連結累計期間(自　平成22年４月１日　至　平成22年９月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額（注）	四半期連結損益計算書計上額
	管材システム事業	樹脂事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,703	5,511	15,214	―	15,214
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	―
計	9,703	5,511	15,214	―	15,214
セグメント利益（営業利益）	55	161	217	△ 40	177

（注）　セグメント利益の調整額△40百万円は、各報告セグメントに配分されない全社費用（主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費）であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。